

各施設の連携についての考え方

三重県の文化振興を進めるという観点で、同種施設または他分野施設、他の県施設や市町・民間施設等との間で連携を進めることについて（アンケート調査の結果）

<連携を進めることについて>

- 各施設・機関がその専門性・強みを活かして相互に補完、相乗性を促進するうえで、今後、施設・組織間連携の必要性は高まるものと考える。 (三重県立博物館)
- 文化関係施設へ行ったことがないという人に対しても、多様な企画があれば見学を動機付ける機会が増えることになる。その意味で他組織との連携により、館の活動に幅が出ることは好ましいことである。 (斎宮歴史博物館)
- この種の連携事業は、先ず連携すべしという上からの発想ではなく、県民の意識、各施設の専門性と自主性、各施設固有のイメージを尊重して進めることが必要。そのことは、過去に試みられた連携事業の中で、各施設の自主性と専門性、内容や発想に無理があるもの、県民が魅力を感じない事業は淘汰され、必然性が認められる事業だけが存続していることから明らかである。 (三重県立美術館)
- 現在の県立図書館は、「新しい県立図書館像」の実現を目指し取り組みを進めているが、その中心に、県の文化振興にもつながる県民への4つの支援（情報収集支援、学習支援、交流支援、成果活用支援）を位置づけている。この取り組みを進めるためには、自ら取り組むことのほか、他の施設との連携も必要であると考えている。 (三重県立図書館)
- 事業団単体では成し得ない効用を発揮でき、県内全域での事業展開を図る上で、市町文化施設や文化団体等多くの文化の担い手と連携・協働することは極めて重要であると考えている。 (三重県総合文化センター)
- 県内各地の文化施設や学校等で、公演やワークショップを開催することで、私どもの活動への認知や関心を高め、事業参加者の裾野の拡大を図るとともに、市町文化施設とは共催や公演の共同招聘等、いろいろな連携策を推進したい。 (三重県文化会館)
- 様々な事業において、関係機関はもとより各種団体等との連携・協働を充実したい。特に、新規連携先を拡大するとともに、企業とのネットワークの構築に力を入れていきたい。 (三重県男女共同参画センター)
- 幅広い生涯学習関係機関との連携を強化し、引き続き多様な学習機会と交流の場の提供をするために、また生涯学習ネットワークの強化を図るために、他施設との連携が必要であると考える。 (三重県生涯学習センター)
- 出土品等の資料の公開活用業務や専門分野に知識を有する職員などの人的な資源の活用に関しては、各施設間との業務連携を進めることに積極的に対応していきたい。 (三重県埋蔵文化財センター)

<連携についての課題・留意点>

- ・連携しやすい仕組みづくりや、予算措置が必要である。 (三重県立博物館)
- ・連携強化を図る一方で、連携先との役割分担を明確化する必要もある。 (三重県立博物館)
- ・個々の事業に即して、県・市町間での主体性や支援の在り方などの役割を整理する必要がある。 (三重県立博物館)
- ・文化振興を進めるという観点での枠組をはずして考えるのも、一つの方法ではないか。 (三重県立博物館)
- ・施設自体の人員が手薄になり来館者サービスが低下する危険性や、貴重資料の運送を行うための経費が望めない現状では、ある程度限定された範囲でないと実施は難しい。 (斎宮歴史博物館)
- ・人的・予算的な支援体制がないと、現状では厳しいものがある。 (斎宮歴史博物館)
- ・毎年予算と人員が削減される状況では、事業量の増大を目指すことは適切ではない。 (三重県立美術館)
- ・必要な予算と人員が確保されることはもちろん、様々な条件がある中で各施設の本業がおろそかにならないように、本務と連携事業との適切なバランスに配慮することも必要と考える。 (三重県立美術館)
- ・指定管理者に管理運営を委ねていることから、事業実施にあたっては、指定管理者との調整が必要となる。 (三重県熊野古道センター)
- ・当センター保管の資料を他施設等で公開活用するにあたっては、文化財として適切に扱われることを原則とする必要がある。 (三重県埋蔵文化財センター)